
眠たいあたしと乙女なアイツ

まほろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠たいあたしと乙女なアイツ

【Zコード】

Z5143P

【作者名】

まほろ

【あらすじ】

高田楓、17歳。高校2年生。成績、どっちかっていえば良い方。顔、まあ10人中8人は可愛いって言つかも。そんなワタシは眠たがり。授業中も、帰つても、休日も暇さえあれば寝てる。もしくはラノベとゲーム。そんなけつこう女として終わつてるワタシに告白してきたやつがいた！！それがあいつ山崎千夏。いまはやり（？）の乙女なメンズ。ワタシよりずっと家庭的？！料理だって裁縫だってお手の物。そんな千夏とワタシのつれづれな日々。

高田楓、17歳。高校2年生。成績、どっちかっていえば良い方。顔、まあ10人中8人は可愛いって言つかも。そんなワタシは眠たがり。授業中も、帰つても、休日も暇さえあれば寝てる。もしくはラノベとゲーム。

そんなけつこう女として終わつてゐるワタシだが、つい最近彼氏ができた。いやつい最近というのは少し語弊があるかもしない、なんたつて告白されたのは今日の昼休み。そして今は放課後。いつもはさつさと帰るワタシが今日に限つてちょっと待ち合わせなんてやっぱ浮かれてる。顔のわりに今まで異性とつきあつたことがないワタシは当然処女である。

そんな奇特な男のの名前は山崎千夏。女のワタシよりずっと乙女だ。趣味は料理と裁縫、部活は手芸部だが文化祭などの時期になると調理部にも助つ人として参加するらしい。なんでらしいのかというと、ワタシが直接聞いたわけではないから。つきあうことになったと言つたら周りがいろいろ教えてくれた。

あだ名はちなくん、少したれ目（ここ重要）のちよつとかわいい系。そう、ワタシは何を隠そつたれ目フェチ。好きな芸能人はみんなたれ目。好きなキャラクターもたれ目。彼の告白を受けたのもたれ目のバランスがよかつたからと声がきれいだったから。

ああ、そんな風にぼーっとしてるとあいつが迎えに来た。ワタシの好みの声で、ワタシの好きな目で、ワタシのことをやさしく呼ぶんだ「楓さん、一緒にかえりましょ」って。ホントにズルイ。

今日もアイツはお皿になるとやつてく。アイツのお手製弁当をこれまでお手製の弁当袋に詰めて。ワタシの分とアイツの分、二つの弁当をひつたげて。

「楓ちゃん、お迎えだよーー！」

とはワタシの友人である花ちゃん。名前のようにふわふわしつつちやくて可愛いいかにも女の子。そして主人公体质（これ大事）。よく漫画みたいな話とか冗談で言つけど、この子は地でそれをやつてる。天然のどじつこで、嘘がつけなくて、すぐ赤くなる。男からの好意に鈍感で「わたしなんかもてないよう、楓ちゃんはいいな、頭がよくて背が高くて美人だし」とかふつうに言つてる。別に花みたいになりたいわけじゃ無いけどたまに苛つとくともある。良くも悪くも鈍感、それが花。

「楓さん、迎えにきたよ。早く食べよつ」

とかいふこと思つてたらしごれを切らしてやつてきた。

「今日のご飯は豚のショウガ焼きと温野菜のチップと自家製スマーケチーズだよ。」

と言つ。どうでもいいけど自家製スマーケって何だ、家でスマーケしたら近所迷惑じゃん。

いつも食べる場所は決まつてる。屋上に続く階段をさりと上ると小さな踊り場がある。そこに彼が持つてきたタオルケットを敷いて食べる。会話はどちらかが今日あつたことを順番に話す。騒がしくないこの時間がすき。

「何でワタシなの？？」

ふと思いついたことを聞いてみると、すると彼はワタシの好きな笑顔で言つた。

「楓さんが楓さんだから好き、寝てると、眠いのに必死に起きよ

うとしてると、『飯を食べると、楓さんの笑顔、声、泣いた顔、驚いた顔全部、楓さん的一部だと思うこととおしいと思う』なんて大まじめな顔をして言うから・・・。

いまきつとまつかだと思つ、恥ずかしかつた、でもそれ以上にうれしくて、いとしきて心がほつかりした。

「ワタシも好き」

何がなんて言わない、だつてキミならわかるはず。

「どうしようすごくうれしい、・・・キスして良い〜??」

良いつて返事をする前に口をふさがれてた。

気持ちを確認して絆が深まつた、ある晴れた五月の日。

ワタシの友達である花は可愛い。

それは周知の事実だし、ぶつちやけもてる。

小さめの身長、ふんわりとした柔らかい髪、大きい目にふくふくのほっぺ、男からしたら庇護欲をそそられること間違いないだろ。勉強は凄く得意じゃないが家庭科はいつも段階中5をキープ、調理実習なんかも率先してやる。

用は、すぐ家庭的。お嫁にほしくらいだ。

だが彼女にも欠点はある、まあワタシがたまに思うだけなんだが。悩みがあるのにもかかわらず、人に相談しない。そして自分で勝手に負のループにはまってしまう。

勝手にくだらない事で悩んで（本人はくだらないらしい）周りが気づいたときには結構大事になってる。

ほら、今もそう。

「おい！…なんでこんなになつてんだよ！…」

と叫ぶのは彼女が好きな野郎その1、藤枝である。さわやかなサッカー少年である。

「うーん、これはちょっとひどいね」

とは軟派なキャラ男、牧田だ。

「あはは、ばれちゃった。ごめんね、心配かけると思つて」とは言わずもがな、花である。

どういう事態かと言つと、花は高校に入った時から好きなやつがいる。そいつがまた周りから「王子」なんて呼ばれてる男で泣かされ

た女は星の数、そんなら抜け駆け禁止でみんなで愛でようみたいな男。

そんな「つきあつたら女子から反感買いまくりのヤロー」の名は神、歩く疫病神に花は片思いしていた。

それだけなら良い、だが一人の仲は進展してしまったのである。

きつかけは放課後の図書館キューピッドはお菓子のレシピ本。
なんてベタ

寝ていた神氏がふと起きると、届かない手を精一杯伸ばして本を取るうとする花を発見、「なんか一生懸命で可愛い」なーんて思つた神氏は普段はまつたく無いフェミニースト心を發揮、代わりに本をとつてあげようとするもキツキツにしまつてあつた本棚からはバラバラと本が・・・・・。

みたいな感じで出会つた二人、花はあこがれの人といられるのがうれしくて、また神は花の飾らない性格や優しさにだんだんと惹かれ・・・。

そして二人は距離を縮めていつた、が、いつこうか「コメにはお約束の「いじめ」がある。

まあ要するに、今まで陰口くらいで済んでいたのにどうとう実力行使が始まつたというわけ。

前置きが長くなつたけどやつづつと。

「おい！…おまえなんでさつきからだまつてんだよ…！ダチが困つてんのみでなんかねえのかよ…！」
「あ、矛先がこっちに・・・、面倒くさい。」

「藤枝君、私が悪いの…！楓ちゃんは悪くないの…！」
「でもさ、これ見て何の反応も無いつてヒドクね？？」

「あのさあ」

三人がワタシを見る。

「ワタシ、怒つてるんだよね。」

そうワタシは怒つてる。

「まずは花」

「は、はい」

「なんでここまでいつちやう前に助けを求めるの？？」

そう、私たちには口がある。心に傷を負う前になぜ助けを求める。自分の力量を把握して出来ることと出来ないことが見極めるのは大事なこと。それが出来なければ社会に出ても仕事は出来ない。

「さらにそこの馬鹿二人

「お、おう」

「自分のファンくらい裁きなさいよ」

この二人を見ると明らかに花を優遇してる、これをやった中には二人の事を好きな女の子たちも入るだろう。

自分の何が悪いのかわからず、好きな人がこぞって一人を優遇していたら怒るだろう。

「そして榎」

アイツは問題外だ、特定の一人を作るならそれまでの関係をきちっと清算しやがれ！！

「最後はワタシ」

そう、何にも相談してこない花に勝手に拗ねて、いじめに巻びこむ
いたのに見て見ぬふりをしたワタシが一番最低だ。

もう最悪、どんなにテストの成績がよくてもこれじゃダメじゃん。

びつしょ、もつなきたい・・・。

「ダイジョウブだよ」

体が支えられる。暖かいぬくもりがワタシを包む
ああ、ちいだ。

「ダイジョウブ、みんなで考えましょう」

ちいのこえは安心する。ちいに言わると素直に自分の非を認められる。

「とりあえず楓さん、泣きやんで下さこ」

「ええつゝ楓ちゃん泣いてるの?...泣かないでーーー。」

あ、花が焦つてゐる。でもどうしょ、止まらない。

アリ

「……」

「ほこだわやんだ」

「ロクと笑うキの顔は好きだね」

「馬鹿ウソ」

少しの文句は許される？？

「ビビンキの魅力はさあるワタシがビンしたる度このかな？？」

(なあ、おれら忘れられてる？？)
(シツ、いまいことじるーー)
(邪魔しちゃダメだよ！)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5143p/>

眠たいあたしと乙女なアイツ

2010年12月25日22時52分発行